

令和3年6月4日（金）

### 【研修内容】

6年 社会科 研究授業

「海から見た社会科 ～縄文時代から弥生時代へ～」

授業者 村上 忠君 先生

### 【協議の柱】

- ・ 子どもの思考の流れに寄り添った授業とは。
- ・ 子どもの社会の見方や考え方は増えたか。

### 【授業の実際】

縄文時代から弥生時代へと移り変わる過程を、稲作の伝播や土器の分布から、海路を使いながら豊かに交易をしていた当時の人々の暮らしについて、資料をもとに考え表現することが本時の目標でした。複式学級の授業方式を採用し、子どもたちが自ら進めていくスタイルの授業でした。人の暮らしと自然との関わりは、この時代の社会を表しており、その時代に身を置いた社会の見方ができるように、土器を切り口に授業は展開されていきました。縄文時代と弥生時代ははっきりとは分けられない。土器の変遷から、海洋民族としての日本人について、縄文人と弥生人の衝突に焦点を当て、当時の人々の暮らしについて考えました。

歴史の学習において社会の見方・考え方とは、人間はどう生きていたのかを考えること。資料が少ない縄文・弥生・古墳時代についての考察は、想像力を働かせる人間としての思考が大切だということを学びました。

